

1. 社会環境システム工学科の教育理念、教育目標

<教育理念>

自然との共生を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤の充実に貢献できる高度技術者を育成する。

<教育目標>

- ・学部においては技術者としての能力および土木環境分野の基礎能力の養成を教育目標とする。
- ・大学院においては高度な専門知識の修得および研究開発能力の養成を教育目標とする。

<学習到達目標：学部卒業時に身に付けている能力>

学部では、具体的には以下に示す能力を備えた人材を育成しています。

(A) 技術者としての基礎（数学を含めた自然科学の知識、コミュニケーション能力、自己学習能力、課題解決能力、技術者としての倫理）を身につけている。

(A-1) 数学を含めた自然科学の知識

土木環境工学の技術者に必要となる専門知識を獲得する際に要求される数学、物理学などの基礎知識と情報処理技術に関する基礎知識を身につけている。

(A-2) コミュニケーション能力

調査・実験・研究内容や成果について図表などを使って正確でわかりやすく記述、発表や質疑応答ができるとともに、専門分野に関する英語を理解・記述するための基礎的な能力を身につけている。

(A-3) 自己学習能力

土木環境工学の分野に興味を持ち、演習などを通じて自主的に学習する習慣を身につけている。

(A-4) 課題解決能力

土木環境工学の分野における課題の発見から解決にいたる手順や方策を計画・遂行できる能力を身につけている。また、調査や実験を計画・遂行し、結果を正確に解析して考察する一連のプロセスを体得している。また、チームで仕事をするための能力を身につけている。

(A-5) 技術者としての倫理

工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解するとともに、公共の福祉の向上と環境保全を使命とする土木環境工学の技術者として必要な倫理・規範や責任を理解・判断できる。

(B) 土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力を身につけている。

自然との調和を図りつつ生活・経済・文化・安全を支える社会基盤を計画・設計・管理・評価する上で必要な、計画学系、建設材料工学系、構造工学系、地盤工学系、水理・水工学系、水処理・環境工学系の専門能力を身につけている。

(C) 社会の要請を察知し、理解して適切な行動ができる。

現代の土木環境工学が直面している国内的、国際的問題を理解し、社会の技術者への要請を察知し、技術者のあるべき方向性を理解して適切な行動ができる能力を身につけている。

<学部教育のキャッチフレーズ：ARCH>

アーチ(ARCH)とは学科教育目標である技術者を表現するキャッチフレーズです。本教育プログラムが、「現在と未来」、「自然と持続可能な開発」、「学生と技術者」を結びつける架け橋でありたいとの願が込められています。

A : Active (積極的)	学習・教育目標 (B)
R : Responsible (責任感のある)	学習・教育目標 (A)
C : Creative (創造的で)	学習・教育目標 (A)
H : Humane (人間性豊かな)	学習・教育目標 (C)